

3 年	音楽	「せんりつのとくちょうをかんじとろう」 3 時間	概 要	ICT ツールの活用、協働的な学 び、振り返り	適 ○
手 立 て	①児童の実態に応じた楽曲選択 ・呼吸及び発音の仕方に気を付けた自然で無理のない響きのある歌い方ができるように、無理なく柔らかい声を出すことのできる音域で作られている曲を選択する。 ②ヒントカードの活用 ・思いや意図に合った表現をするために、既習の技能(口形や姿勢など)を記載した4種類のヒントカードを必ず参考にしながらグループで歌い方の工夫を行えるようにする。 ③ICT ツールの活用(タブレット) ・毎時間、グループの歌声を録音する。録音を聴いて課題を見付けたり、何度も録音して曲想に合う歌声を見付けたりして、1時から3時に向けて児童自身が変容していく姿を捉えられるようにする。 ④次の学びに生かす「振り返り」 ・教師が児童の振り返りを整理し、振り返りから次時の課題を見付けてめあてを設定する。また、振り返りを内容別に集約して掲示することで、友達の意見を試すことができるようにする。 ⑤グループ編成 ・A、B、C児童が均等に分かれるようにグループをつくる。			児 童 の 様 子	・今まで取り組んだことのない曲想や音域の歌だったため、自然と声色を変えて歌ったり、グループで歌った時に喉声(生声)と歌う声の違いに気付いたりすることができた。 ・ヒントカードを参考にしながら歌声を試行錯誤するグループが多くみられた。特に多く活用されていたのは、「口形」と「姿勢」である。しかし、カードの内容以外の工夫が見られないグループもあった。 ・タブレットを置く位置によっては歌声を拾いきれず、困っている様子も見られた。 ・振り返りの掲示物を確認しながら、友達が挙げていた考えや改善点をグループ活動で取り入れ、試すことができていた。(5グループ中3グループ) ・一人一人が課題や目指す歌声を見付けていても、意見を発信する児童が偏ってしまった。また、良い意見が出ても周りの声に押しつぶされてしまうこともあった。
	成 果	・曲想が全く違う歌唱曲を選んでも、児童は全て元気よく喉声(生声)で歌ってしまうなど、同じような表現の仕方になってしまうことが課題であったが、グループで録音して聴き合ったことで、普段意識を向けにくい自分たちの歌声に耳を向けることができていた。 ・グループごとに歌声や声の出し方をタブレットで撮影し合い、聴き合う活動をしたことで、自分たちの歌声や声の出し方について課題意識をもったり、友達の表現のよさに気付いたりすることができた。 ・1時から3時でグループの歌声を録音して聴き比べたことで、歌声が変容していく様子を児童が実感することができた。	課 題	・本時に向けて、準備する物が多かったことから多くの時間を費やした。題材ごとに絞るなど、教師側の工夫が必要。 ・本時のめあてや課題を具体的につかむことができないまま、グループ活動に入ってしまった学級もあった。児童の振り返りで出た意見を先にいくつか試すなど、「①児童が経験②慣れる③工夫」の一連の流れが必要。 ・グループ活動の際、新しい視点での児童の発言が流されてしまったり、聴き比べて出た児童の意見を試せなかったりした。グループ活動において、教師による児童への効果的な働きかけが必要。	